



デジタルカメラ

ZV-1M2

スタートガイド

ZV-1M2

ヘルプガイドについて



本機の詳しい使いかたは、ヘルプガイド(Web取扱説明書)をご覧ください。

<https://rd1.sony.net/help/dc/2310/ja/>

ZV-1M2 ヘルプガイド

**警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

本書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書をよく読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

**警告** **安全のために** → 裏面もあわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる感電や傷など人への危害、また火災などの財産への損害を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がいたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら  
煙が出たら

- ① 電源を切る
- ② 電池をはずす
- ③ 相談窓口に連絡する

裏面に相談窓口の連絡先があります。

**危険** 万一、電池の液漏れが起きたら

- ① すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂のおそれがあります。
- ② 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。
- ③ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。
- ④ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

本書や製品では、次のような表示をしています。

**危険**

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

**警告**

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

**注意**

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含まれます。

準備する

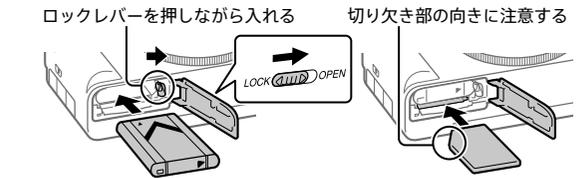
付属品を確認する

( )内の数字は個数です。

- カメラ (1)
- リチャージابلバッテリーパックNP-BX1 (1)
- ウインドスクリーン (1)(ウインドスクリーンアダプターに装着)
- ウインドスクリーンアダプター (1)
- スタートガイド(本書) (1)
- 保証書 (1)

バッテリー (付属) /メモリーカード(別売)を入れる

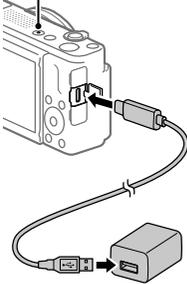
バッテリー /メモリーカードカバーを開けてバッテリーとメモリーカードを入れ、カバーを閉じてください。



このカメラはSDカードまたはメモリースティックに対応しています。メモリーカードの動作を安定させるために、このカメラではじめてお使いになるメモリーカードは、まず、カメラでフォーマット(初期化)してください。

バッテリーを充電する

充電ランプ



- ① **カメラの電源を切る。**
  - カメラの電源を入れた状態では、充電は行われません。
- ② **市販のUSB Type-Cケーブルを使って、市販のUSB ACアダプターやモバイルバッテリーなどの外部電源とカメラのUSB Type-C端子をつなぐ。**
  - 充電が始まると、カメラの充電ランプが点灯します。充電ランプが消灯したら、充電完了です。

カメラの初期設定を行う

カメラとスマートフォンをBluetooth接続(ペアリング)することで、日時設定などカメラの初期設定をスマートフォンから行うことができます。あらかじめ、専用アプリをお使いのスマートフォンにインストールし、「初期設定の手順」の①～③に従って設定してください。

専用アプリのインストール



以下のウェブサイトからインストールしてください。また、専用アプリは最新版にアップデートしてお使いください。なお、専用アプリの仕様は予告なく変更されることがあります。

<https://www.sony.net/ca/>

初期設定の手順

ON/OFF (電源) ボタン



コントロールホイール/中央ボタン

- ① **ON/OFF (電源) ボタンを押して、カメラの電源を入れる。**
  - プライバシー通知の画面が表示されます。スマートフォンなどで、リンク先にある生体認証に関するプライバシー通知をよくお読みください。
- ② **コントロールホイールの中央を押す。**
- ③ **カメラの画面の指示に従って、カメラとスマートフォンの接続、およびカメラの初期設定を行う。**
  - 初期設定時の設定は、あとでカメラのメニューから設定/変更することもできます。

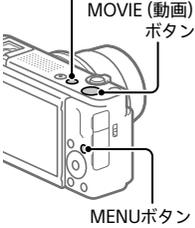
あとからカメラとスマートフォンを接続(ペアリング)するには



詳しい接続方法は、下記からヘルプガイドをご確認ください。  
[https://rd1.sony.net/help/dc/2310\\_pairing/h\\_zz/](https://rd1.sony.net/help/dc/2310_pairing/h_zz/)

動画を撮影する

静止画/動画/S&Q 切替ボタン



- ① **静止画/動画/S&Q切替ボタンを押して、動画撮影モードにする。**
  - ボタンを押すたびに、静止画撮影モード、動画撮影モード、スロー & クイックモーション撮影モードの順に切り替わります。
- ② **MENUボタンを押して、▶ (撮影) → [撮影モード] → ▶ (撮影モード) で好みの撮影モードを選ぶ。**
- ③ **MOVIE (動画) ボタンを押して撮影を開始する。**
- ④ **もう一度MOVIE (動画) ボタンを押して終了する。**

ウインドスクリーン(付属)を使うには



動画撮影時に、内蔵マイクで風音が記録されてしまう場合に風音を低減できます。ウインドスクリーンをマルチインターフェースシューに取り付けてください。

本機について / 使用上のご注意

お使いになる前に必ずお読みください

ヘルプガイドの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

表示言語について

本機では、日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

本機の取り扱いについてのご注意

- レンズを絶対に太陽や強い光源に向けたままにしないでください。レンズの集光作用により、発煙・火災、ボディやレンズ内部の故障の原因になります。
- 太陽光や強い光源がレンズからカメラに入ると、カメラ内部で焦点を結び、発煙や火災の原因となることがあります。また逆光での撮影時は、太陽を画角から充分にずらしてください。光源を画角からわずかに外しても発煙や火災の原因となることがありますのでご注意ください。
- 本機(付属品を含む)は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。本機をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、本機のご使用前に担当医師にご相談ください。
- ボリュームは徐々に上げてください。突然大きな音が出て、耳をいためることがあります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。付属品やメモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。
- 万一モニターが破損した場合は直ちに使用を中止してください。破損した箇所を手や顔等を切る等の怪我をする恐れがあります。
- 静止画を連続撮影したとき、モニターに撮影画面と黒い画面がすばやく交互に表示されることがあります。このとき、モニターを見続けることにより、体調不良などの不快な症状が出る可能性があります。不快な症状が出たときは、本機の使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。
- 長時間撮影/長時間ストリーミングおよび4K動画撮影中、本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態であると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となることがあります。以下の場合には特にご注意ください。
  - 気温の高い環境でご使用になる場合
  - 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合
  - 自動電源OFF温度を[高]に設定してご使用になる場合

ソニー製純正アクセサリをお使いください

本機を他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

ACアダプター /チャージャーについて

ACアダプター/チャージャーは、お手近なコンセントをお使いください。不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。充電ランプがある機種は、ランプが消えても電源からは遮断されません。

無線に関連する機能(Wi-Fiなど)を一時的に無効にする

無線に関する機能は、[機内モード]で一時的に無効にできます。

Wi-Fi機能をオンまたはオフにする

MENU → (ネットワーク) → [接続/PCリモート] → [スマートフォン接続] を選んだあと、スマートフォンの専用アプリから操作する。

Bluetooth機能をオンまたはオフにする

MENU → (ネットワーク) → [Bluetooth] → [Bluetooth機能] → [入]または[切]を選ぶ。

無線機能使用上のご注意

本機の無線機能は、国や地域によって法規制により使用できない場合があります。お使いになる際は、その国や地域の法規制にしたがってください。

本機が出す電波が計器や医療機器等に影響を与える恐れがあるため、飛行機内、病院で無線使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。

**この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項**  
 本製品は2.4 GHz帯を使用しています。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局(免許を要する無線局)等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。  
 1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。  
 2. 万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。  
 3. その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。

2.4FH8/XX8	2.4 DS2/ OF2
------------	--------------

2.4 : 2 400 MHz帯を利用する無線設備を表します。  
 DS/OF/FH/XX:変調方式が DS-SS/OFDM/FHSS/その他の方式、であることを示します。  
 2 : 想定される干渉距離が20 m以下であることを示します。  
 8 : 想定される干渉距離が80 m以下であることを示します。  
 2.4 FH8 : 2 400 MHz ~ 2 483.5 MHzの全体域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを示します。  
 2.4 DS2 : 2 400 MHz ~ 2 483.5 MHzの全体域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを示します。

